

今月の診断書 No.347



小牧市民病院 産婦人科部長医師

佐野 美保

不妊治療について



不妊専門外来の開始

市民病院産婦人科では今年の7月から月曜と金曜の午後2時より不妊専門外来を開始しました。(予約制)

不妊治療への理解について

今まで不妊治療は、悩んでいる人が多いのにも関わらず、不自然なことと見られ、なかなか理解されない面もありました。

子どもがほしいと考えることは、自然なことではありますが、非常に個人的なことで、周りが「こうでなくてはならない」とやきもきすることではありません。

ただ私たちは、中学生頃から、赤ちゃんができないように相手を思いやるという性教育は受けてきましたが、いつか赤ちゃんができない体になるという教育は、ほとんど受けていなかったと思います。

卵子について

女の人は、生まれたときから卵子を卵巣に保存しています。毎日作られる精子と違い、卵子は新しく作られるものではありません。毎月の排卵はずっと保存されてきた卵子がその時期に排出されるものです。

また、人によって同じ年齢でも残っている卵子の数は違い、

その差も大変大きいことが分かっています。

卵子の数の検査について

最近になり、卵子の残りが多いのか少ないのかを血液検査で測ることができるようになりました。

その結果をみると、若くても、卵子の残りが少ない人がいたため、若ければ妊娠するだろうという従来の考えは正しくないことがわかりました。

卵子の数はあくまで目安であり、妊娠しやすい、しにくいとは違います。

しかし、自分が妊娠できる期間に限りがあるという自覚をもつことは、女の人の人生設計の助けになると思います。

この検査は、採血でアンチミュラーリアンホルモン(AMH)を測定します。現在のところ、保険が適用されず、当院では検査代として約8,500円かかります。

不妊治療までは希望しなくても、この検査を受けるだけでも可能ですので、外来を受診し、検査を受けてみてください。

検査をご希望の場合は、平日の午前8時30分から11時30分までに産婦人科外来を受診してく

ださい。その後、結果の詳しい説明を聞きたい方、不妊治療について相談したい方は、不妊専門外来をご予約ください。

排卵のリズムについて

初めて生理がくるのは、平均して12歳頃といわれていますが、その後順調な排卵のリズムが整うまでに5年ほどかかると言われています。

18歳くらいまでは、生理もバラバラな女の子も多いと思います。その後、成長するに従って、ホルモンのバランスも整い、気力体力ともに充実している20〜30代前半が最も妊娠しやすく、また妊娠に適している時期といえます。

35歳を過ぎると、だんだん妊娠率が落ち、40歳からはさらに低くなります。体外受精などの高度生殖医療を受けたとしても同じことが言えます。

終わりに・・・

赤ちゃんはいつかやってくる、と待つことも一つの選択肢ですが、今一度、自分の体と向き合ってもらい、自分の人生を考えることに繋がる助けになりたいと思います。

問合先 市民病院 (☎76-4131)